

佐 渡 鉱 山

施設管理者 : (株)ゴールデン佐渡
施設所在地 : 新潟県佐渡郡相川町大字下相川 1305
調査見学時期 : 平成 13 年 10 月 18 日

施設概要

● 佐渡金山 400 年の歴史

慶長 6 年（1601 年）の開山。

徳川幕府の基礎を築いた財源であり、日本最大の金山として有名であったが、昭和 15 年（1940 年）月産 5 万トン処理（東洋最大の浮遊選鉱場）をピークに下降線をたどり、平成元年休山、観光坑道として現在に残る。

● 金山の概要

- ・東西 3,000m × 南北 600m に分布。坑道総延長は 400km。
- ・坑内は、水平坑道、豎坑、連絡坑道からなり、鉱山西部では、深度 667m（海面下 530m）に達する坑道がある。
- ・鉱山の歴史は、排水との戦いであり、江戸時代は人力による排水作業が行われた。全長 915m の南沢疎水坑は、1691 年から丸 5 年をかけ、鑿と槌だけで掘り抜いており、途中 2 個所に中間立坑を設け、3 区分して 6 個所から開削し、工期短縮を図っている。各貫通点の誤差は僅か数 10cm で、他に類を見ない精度。
- ・全盛時は、坑口/300、人口/10 万人の大鉱山都市。（現在は、9 千人）
- ・主たる鉱脈の金品位：2.4～8.0g/トン、銀品位：50～120g/トン
（最終金品位（昭和 48 年（1973 年））：3.0g/トン、銀品位：70g/トン）

● 現在

旧坑道を活用した観光坑道“佐渡金山”で当時の模様を再現している。また、一般公開していないものとして、坑道内の古酒の保存所、屋根瓦に菊の紋章が見られる旧鉱山時代の立て坑入り口建屋などがある。

ほかに、開山 400 年文化庁補助事業として、建設中の平成 20 年完成予定の佐渡奉行所の見学、絶滅が心配された朱鷺の保護育成場も見学できる。



道遊の割戸



復旧中の佐渡奉行所